第23回アフターレポート

おしゃべりえほんの会

今回のテーマ

「復刻版こどものとも」

作成：四日市市立図書館児童室　℡059-352-5108

於：令和5年5月3日（水）午前10時～11時半　四日市市立図書館2階視聴覚ホール

絵本を好きな人が集まり、絵本について気軽に話をしよう！と行っている、この、「おしゃべりえほんの会」。

23回目の開催となる今回のテーマは、「復刻版こどものとも」。復刻版は、刊行当時のままの形で、特製ケース入りのセットとして発売されたものです。（現在は販売終了）

今回は月刊絵本『こどものとも』の創刊号から150号までの復刻版と、そのなかでハードカバーになった絵本を並べました。なかなか壮観でした！

じっくり見比べると面白い！

1956年の創刊から、日常を描いた物語、動物や乗り物が主人公の物語、日本や世界の昔話、ファンタジーなど、心に残る名作を生み出してきた月刊絵本 『こどものとも』。ハードカバー版と見比べることは、普段、なかなかないことで、新しい発見がいくつもありました。

【絵本製作に思いを馳せる】

まず、参加者が驚いていたのは「作品のなかに描かれているものの変化」です。たとえば、『ちいさなねこ』。雑誌として1963年4月に出版されたものと、ハードカバーの1967年初版のものでは家屋や車種、子どもたちの服装などが変わり、時間の経過を実感します。参加者のなかには、並べて同時にめくって、違いを楽しむ方も。

【裏に続く】

文を書いた人が同じでも画家が変わっている作品もあります。いまでは長新太の絵でおなじみ『ぴかくんめをまわす』の当時の絵は、馬場のぼるでした。

また、雑誌では縦長だった作品がハードカバーでは横長になり、だいぶ違うイメージになったものもあります。たとえば『のろまなローラー』は表紙の印象も全然違いますね。

縦長から横長へ

ほかにも、雑誌『こどものとも』は、創刊からずっと縦長のかたちだけでしたが、1971 年6月号の『とらっくとらっくとらっく』から、横長のレイアウトを採用するようになりました。「絵本を作る側も、絵本づくりのために試行錯誤をしている様子が伝わってくる」という声がありました。

【懐かしさと新しさ】

今回の参加者のなかには「『こどものとも』に子どものころからなじみがあって、久しぶりの再会でうれしい！」という人もいれば、「（知っている物語を見て）はじめは『こどものとも』で出版されてたんだ」と新発見する方、

「初めて読む作品がたくさん！」といろんな作品との出会いに心躍らせる人もいました。「この作品がハードカバーになっていないのは残念」「昔の作品だけど、今見てもハッとする魅力がある」との声も…。

それぞれの楽しみかたで、『こどものとも』の魅力にどっぷりと浸かった時間を過ごしている姿が印象的な会となりました。

おしゃべりえほんの会、次回の開催は 9 月を予定しています（テーマ未定）。
ぜひおたのしみに。

『こどものとも』について詳しく知りたい人は、『おじいさんがかぶをうえました 月刊絵本「こどものとも」50 年の歩み』をどうぞ。
また「復刻版こどものとも」は、貸出しはしていませんが、館内でご覧いただくことができます。ご希望でしたら職員へお声がけください。